

当院におけるPTX施行症例の検討

医療法人社団スマイル博愛病院¹⁾
広島大学大学院腎臓病制御学講座²⁾

○奥本 賢¹⁾、牧 敬子¹⁾、高杉敬久¹⁾、頼岡徳在²⁾

はじめに

二次性副甲状腺機能亢進症は慢性透析患者における頻度の高い合併症である。

治療としては、まず活性型ビタミンD製剤の内服・静注が行われるが、こういった内科的治療に抵抗する症例では外科的治療が必要となる。

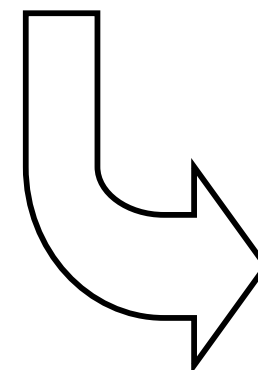
当院ではこのような症例に対しては副甲状腺摘出術（＋自家移植）（PTX）を選択している。

当院で経験したPTX施行症例28例についてまとめ、臨床的検討を行う。

患者背景

年齢(PTX施行時)	47.9 ± 10.6	(歳)
性別(男:女)	16:12	
透析期間	159.3 ± 74.0	(ヶ月)
原疾患	CGN 19例	
	IgA腎症 3例	
	DM 1例	
	嚢胞腎 1例	
	妊娠腎 1例	
	RPGN 1例	
	慢性腎盂腎炎 1例	
	腎結核 1例	

術前CTでの腫大副甲状腺数	3.2
摘出された副甲状腺数	3.6



5腺 1例
4腺 17例
3腺 9例
1腺 1例

術後合併症：左反回神経麻痺 1例

全例で術後に副甲状腺ホルモン値の著減
および自覚症状の改善をみた。

再発例

28例中 9例に再発がみとめられた。

移植片の腫大 2例

移植片の腫大により3度の再発をみたものが1例あった。

残存副甲状腺の腫大 7例

うち1例は異所性副甲状腺(縦隔内)であった。

再発例(2)

		再発あり	再発なし
摘出された副甲状腺数	5	0	1
	4	3	13
	3	6	3
	1	0	1

p<0.05

(non-paired t test)

組織型

副甲状腺過形成 27例

副甲状腺腺腫 1例

甲状腺癌の合併 6例

すべてPapillary adenocarcinoma

まとめ

平成6年以前にPTXを行った症例では3腺摘出例が多い。

その場合、4腺摘出例と比較して有意に再発率が高かった。

甲状腺癌の合併をみとめた症例が28例中6例(21%)と高頻度であった。

三木らの報告によると、PTX施行11例中4例(36%)に甲状腺癌の合併をみとめ、一般の剖検例での甲状腺癌合併率(11%)に比べて有意に高かった。
(J.Surg.Oncol,1992 Mar;49(3):168-171)

結語

PTXは二次性副甲状腺機能亢進症に対する、安全で有効な治療法である。

術式としては、副甲状腺全摘＋自家移植が最も望ましい。

甲状腺癌の合併が高頻度にみられるため、二次性副甲状腺機能亢進症の診療においては、甲状腺癌の存在を念頭に置くべきである。